

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名（施設名） 山王保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的な計画は児童憲章や保育指針などの趣旨をとらえて、また保育所の理念、保育の指針や目標に基づいたしおりが編成している。 ・ 全体的な計画には子どもの発達過程や家族、地域に実態などを考慮して編成している。 ・ 年度末に全職員で見直し、新年度に確認し編成している。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 <input checked="" type="checkbox"/> 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 <input type="checkbox"/> 9 内装等には、木材を利用している。 <input checked="" type="checkbox"/> 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 <input type="checkbox"/> 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。	<ul style="list-style-type: none"> ・古い園舎であるが工夫して、きれいに掃除して使っている。 ・山王保育園は他の保育園と比較して歴史があり、建物は建築されてから年数経過している。保育園のトイレ、手洗い場については外気が直接入り込む構造になっている。手洗い場は外にあり水道と温水が併設されており、湯沸かした温水で手を温めてから手洗いをする状態である。保護者アンケートからは改善を望む要望が出されている。温水の利用については中長期の施設の改修の中で優先的に取り組み、子どもが心地よく過ごすことのできる環境が整備されることを期待する。
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。		a)	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの発達を見極め、その子に合わせた配慮を行い、子どもの意欲を大切に、子どもが主体的に動けるよう援助している。 ・一人ひとりに応じた活動と休憩がとれるようにしている。紙芝居などで生活習慣の大切さを伝えている。 ・手洗い、歯磨き、トイレ等の基本的な生活習慣はしっかり身につける工夫がされていた。トイレのスリッパを脱ぐ場所には足型が書いてあり、子どもたちがきちんと置く様子が見られた。
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・街中のビルに囲まれた園にもかかわらず「信州やまほいく」の工夫が多くみられた。牛乳パックで手作りした「散歩BOXパック」を持って散歩に出かけていた。市街地ゆえの交通量の多い道路を歩いたりするが、小さい頃から交通ルールを学ぶことは強みでもある。園庭のフェンスの横を流れる用水は川遊びに熱中している子どもも見られ、とても自然豊かな活動となっている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	<p>⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<p>■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</p> <p>■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。</p> <p>■ 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。</p> <p>■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</p> <p>■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</p> <p>■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</p>	<p>・身近な保育士とのかかわりが確立されている。見知らぬ人が入っていくと泣きながら保育士に抱きつく様子から保育士に愛着関係があることがわかる。畳のブースがあり、ハイハイをしたり、ゴロゴロしたり安心して過ごす環境が工夫されている。また、保育士のアイデアが反映された手作りのおもちゃでとても良い保育を行っている。</p>
			<p>⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<p>■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分ですらとする気持ちを尊重している。</p> <p>■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</p> <p>■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</p> <p>■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</p> <p>■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。</p> <p>■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</p> <p>■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</p>	<p>・部屋の中が、生活に関わる所と遊ぶ所にきちんと分けられている。基本的な生活習慣の習得とともに遊びのつながりが工夫されている。特にごっこ遊びに使われている家電製品や壁に手作りのものがたくさんあり、とても暖かみが感じられる空間になっている。</p> <p>・人形を背負う手作りのおぶり紐をうれしそうに保育士にせがむ場面がみられた。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3、4歳児は異年齢クラス編成になっていて、3、4歳児全体を3つのクラス（そら、つき、たいよう）に分けている。年齢で帽子の色分けをし、帽子の上の手作りの小さな布でクラスがわかるように工夫されていた。教室の中の机も異年齢が混在していて名前や年齢がわかるようになっていた。異年齢保育が山王保育園の大きな特色となっている。
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務室に医療ケア用のベッドを設置して必要に応じて対応していた。看護師は3名常駐しており安心できる体制となっている。 ・ こども相談室では定期訪問が行われていて適切なアドバイスや保育計画を行っている。障害のある子どもに対する国内研修が行われている。 ・ 保護者へは連絡ノートにより詳しく様子を伝えている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	・長時間の保育の子どものために、ゴザやクッション等があり寝転んだり、ゆったり後半の長時間保育を過ごす環境が整えられている。時間外保育は6カ所で行い、最終は1カ所に集まりクラスを超えた異年齢での貴重な時間帯となっている。夕方のおやつも提供されている。クラス担任からの申し送り等はメモ等を利用して保護者に確実に伝えている。
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	・園外活動の散歩で近くの小学校まで行っている。音楽会や交流会があり、1年に2度は必ず交流している。本年度の年長児童は23人であるが12校に分かれており、個々の小学校全ての訪問することは難しいと考えられる。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>・子どもの健康管理は、マニュアルに従い保護者からの連絡や日常での子どもの様子から保育士同士は周知し把握している。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>・看護師が毎月体重と身長を測り記録している。歯が生えていない月齢も歯科検診を行っている。歯磨きの習慣も自然と身についていて、自ら進んで行っていた。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(3)	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	・アレルギーの子どもには、除去食があり、その子どものアレルギーに対する薬は看護師が預かっている。毎日、調理員、担任、保育主任(園長)が除去食の確認を行い、配膳トレーを使用し誤食がないよう工夫していた。
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	・衛生管理の配慮しながらも楽しい食事ができるよう工夫していた。給食は一人ずつ量を確認しながら盛り付けていた。訪問当日も保育士の提案で急遽戸外でゴザを敷いてのおやつとなった。水筒を持って子どもたちは大はしゃぎであった。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(4)	② 子どもがおいしく安心して食 べることのできる食事を提供 している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	・月1回給食担当の職員がクラスに入り子どもたちと一緒に食事をし子どもの様子を観察している。おやき、やしょうま、ニラせんべい等郷土料理を取り入れている。献立にも食育を取り込み様々の話題が工夫されている。
A	2 子育て 支援	(1) 家庭との 緊密な連 携	① 子どもの生活を充実させるた めに、家庭との連携を行っ ている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	・おたよりノートによる情報交換は未満児のみであるが、幼児はクラスボードを活用し、それ以外にも送迎時の口頭連絡やメモ書きによる情報交換を行っている。掲示物、保育参加・試食会、個別懇談、園だより、クラスだより、入園説明会（新規・継続）、保護者会、保護者参加行事時等で理解を得られる機会を設けている。保育参加、試食会、プール参観、保護者参加行事時（夏祭り・運動会・たのしみ会等）等で共有できるようにしている。個人情報ノートに記録する。個別懇談の内容は保育の個別計画に書き加えている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	2	(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。	・保護者とのコミュニケーションに力を入れている。送迎時には必ず声がけをしていた。支援センターが園内に設置され訪問日も0歳児と保護者で26名の利用があった。保育園の入り口から園内を通って支援センターに行くので園内の様子もわかるようになっている。土曜保育や一時預かりも常に受け付けている。
					■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。	
	■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。					
	■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。					
	■ 112 相談内容を適切に記録している。					
	■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。					
		② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a)	■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。	・身体測定や日々の着替え等でチェックしたり、親子の様子を観察している。保護者の精神面での相談に応じることで子どもの虐待にならないよう心掛けている。	
		■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。				
		■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。				
		■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。				
		■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。				
		■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。				
			■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>・週日案への記録、幼児・未満の話し合い、職員会での報告・相談によって保育実践の振り返りを行っている。週日案、月案での振り返りには自らの保育と子どもの育ちを評価している。</p> <p>・第三者評価基準による自己評価、週日案、月案での振り返りで評価している。また、正規職員は能力評価、業績評価でも評価している。嘱託職員は人事考課による評価を行っている。第三者評価基準による自己評価をまとめて改善点を探り、実践することで意識の向上に繋げている。研修情報を提供し、自主研修に積極的に参加できるようにしている。</p> <p>・第三者評価基準による自己評価をまとめて、改善点の具体的な取り組みを実践することで、園全体の評価につなげている。</p>